

わたしたちの心を対処して、わたしたちの内側の神聖な命の種を成長させ、
わたしたちが命において円熟して、命における神の建造へと至る

聖書：マタイ 5:8. 13:3-9, 18-23. 箴 4:23. エレミヤ 32:39. エペソ 3:16-1

I. わたしたちは主の臨在の光の中でわたしたちの心を対処して、わたしたちの内側の神聖な命の種を成長させ、わたしたちが命において円熟へと至るようにしなければなりません。心は人の内なる各部分の集合体であり、人の主要な代表であり、人の行動する機関です：

- A. わたしたちの心は、わたしたちの魂のすべての部分、すなわち思い、感情、意志に（マタイ 9:4. ヘブル 4:12. 使徒 11:23. ヨハネ 14:1. 16:22）、わたしたちの霊の一部分である良心（ヘブル 10:22. I ヨハネ 3:20）を加えたものから成っています。
- B. わたしたちの心が活動しているときはじめて、霊を活用することは役に立ちます。もし人の心が無関心であるなら、霊は内側に閉じ込められており、その能力を発揮することができません—マタイ 5:3, 8. 詩 78:8。
- C. 魂はパースンそのものですが、心は行動におけるパースンです。心は、わたしたちの全存在の行動する機関、行動する執行者です。
- D. わたしたちの物質の体の活動と行動は、わたしたちの物質の心臓に依存しています。同様に、わたしたちの日常生活、わたしたちがどのように活動し振る舞うかは、わたしたちがどのような心理上の心を持っているかにかかっています。
- E. 心は、命の入り口と出口であり、命の「スイッチ」です。もし心が正しくなければ、霊の中の命は妨げを受け、命の法則は自由に妨げなしに働くことができず、わたしたちの存在の各部分に到達することができません。命は大きな力を持っていますが、この大きな力はわたしたちの小さな心によって制御されます—箴 4:23. マタイ 12:33-37. 参照、エゼキエル 36:26-27。

II. わたしたちの命における成長は、キリストのからだとしての召会を建造します。これはわたしたちの心の中の命の種であるキリストの成長によって起こります（I ヨハネ 3:9. I ペテロ 1:23. コロサイ 2:19. エペソ 2:21. 4:15-16. マタイ 13:18-23）。わたしたちは、心に対処することによって主と協力する必要があります。それは、この事が、以下の特徴をもって保持されることができるためです：

- A. 神は、わたしたちの心が柔らかいことを願っています：
 - 1. 神はわたしたちの心を対処するとき、わたしたちの肉から石の心を取り除き、わたしたちに肉の心、すなわち柔らかい心を与えます—エゼキエル 36:26。

2. 柔らかいことが意味するのは、わたしたちの心が主に対して服従的であり、従順であり、頑固でなく、反逆的でないことです—参照、出 32:9。
 3. 柔らかい心とは、その中でキリストが自由に成長することのできる良い地です。それは、この世的な往来によってかたくなにされていない心、自己追求のない心、時代の思い煩いと富の惑わしのない心です—マタイ 13:3-9, 18-23。
 4. 神はご自身の愛を用いてわたしたちを感動させることによって、わたしたちの心を柔らかくします。もし愛がわたしたちを感動させることができなければ、神はご自身の御手を用い、環境を通して、わたしたちを取り扱い、ついにはわたしたちの心が柔らかくなるようにします—Ⅱコリント 5:14, 4:16-18, ヘブル 12:6-7, 参照、エレミヤ 48:11。
- B. 神は、わたしたちの心が純粋であることを願っています：
1. 純粋な心とは、神を愛し神を求める心です。それは神以外に、他の愛、傾向、願いを持ちません—マタイ 5:8, 詩 73:25, 参照、エレミヤ 32:39。
 2. わたしたちの心は、神に対して単一であるべきです。そうすればわたしたちは、神を怒らせることと神の臨在を失うことだけを恐れます—詩 86:11, イザヤ 11:1-2。
 3. 心が純粋であるとは、神の栄光のために神のみこころを完成するという単一な目標を持つということです。わたしたちの目標は、最大限にキリストを享受し、獲得することであるべきです—ピリピ 3:7-14。
 4. わたしたちは、「純粋な心で主を呼び求める人たちと共に」キリストを追い求めなければなりません—Ⅱテモテ 2:22, Iテモテ 1:5, 詩 73:1。
- C. 神は、わたしたちの心が愛する心であることを願っています：
1. 愛する心とは、感情が神を愛し、神を求め、神を渴望し、神を慕い求め、主と個人的で、愛情に満ちた、私的で、霊的な関係を持っている心です—詩 42:1-2, 雅 1:1-4。
 2. わたしたちは心を何度も何度も主に向け、心を絶えず新しくしていただかなければなりません。それは、わたしたちが主に対して新しく新鮮な愛を持つためです—Ⅱコリント 3:16。
 3. 霊的な経験すべては、心の中の愛から始まります。もしわたしたちが主を愛さなければ、どんな霊的な経験も持つことができません—エペソ 6:24, 啓 2:4-5。
 4. 主に対するわたしたちの愛は、わたしたちを資格づけ、成就し、装備して、主の権威をもって主のために語らせます。もしわたしたちが極みまで主を愛するなら、わたしたちは主で満たされ、主をあふれ流し出すでしょう—ヨハネ 21:15-17, マタイ 26:6-13, 28:18-20。
- D. 神は、わたしたちの心が平安であることを願っています：

1. 平安である心とは、良心にとがめがなく、罪定めがなく、責められるところのない心です—使徒 24:16. I ヨハネ 3:19-21. ヘブル 10:22。
2. もしわたしたちが神の臨在の光の中で自分の罪を告白するなら、わたしたちは彼の赦しと清めを受けます。それによって、わたしたちは、正しく純粋な良心をもって、神との絶え間のない交わりを享受します—I ヨハネ 1:7, 9. I テモテ 1:5. 3:9。
3. 祈りの中で神との交わりを実行した結果は、わたしたちが神の平安を享受することです。神の平安とは實際上、神が平安として、キリストの中でわたしたちの心と思考のために歩哨に立ち、わたしたちを平静にし安らかに保つことです—ピリピ 4:6-7。
4. わたしたちは、キリストの平安にわたしたちの心を裁定させ、互いに赦し合い、一人の新しい人を着る必要があります—コロサイ 3:13-15。

Ⅲ. わたしたちは神の命がわたしたちの心の中で出遭う障害を見る必要があります：

- A. 神の命がわたしたちの中で出遭う第一の問題は、わたしたちが人の観念の暗さを認識していないということです—II コリント 3:14. 4:4：
 1. わたしたちが見る必要のあることは、クリスチャン生活において重要な唯一の事が、わたしたちの中の生けるキリストを、わたしたちがどのように扱うかということです—ガラテヤ 1:16. 2:20. 4:19. ピリピ 1:19-21. II コリント 3:18。
 2. クリスチャンであるとは、キリスト以外のどんなものもわたしたちの目標にしないことを意味します。多くの人が救われた後に、霊的な命の上で困難を持つのは、彼らが命の道を認識しておらず、キリストを彼らの命としていないからです—ローマ 8:6。
- B. 命がわたしたちの中で出遭う第二の問題は、偽善です—マタイ 6:2, 5. 7:5. 23:13-29：
 1. 人の霊性は外側の現れによるのではなく、彼がどのように内住するキリストを取り扱うかによります。
 2. わたしたちの天然の良さは偽りの霊性であり、それは実は命にとって大きな障害です。命の表現は、わたしたちの天然の個性と好みを拒絶して、単純にキリストにわたしたちの中で活動していただき、わたしたちを砕いていただくことと関係があります。
 3. もしわたしたちが、いつも自分の個性と天然の存在にしたがって物事を行なうのであれば、その結果はいつも偽善です。
- C. 命がわたしたちの中で出遭う第三の問題は、反逆です—II コリント 10:4-5：
 1. キリストはわたしたちの中で活動し、わたしたちを感動して、わたしたちに対する彼のみこころが何であるか、わたしたちに対する要求が何であるか、わたしたちに対する彼の導きが何であるか、わたしたち

に対する対処が何であるかを、わたしたちにはっきりとさせます。

2. しかしながら、もしわたしたちが内側の感覚に服従せず、逆らい、彼の導きを受け入れず、代価を払わないなら、このように願わないことや反対することは、反逆です。
3. わたしたちが最もしばしば、また最もひどく犯す罪は、外側に見えるものではありません。そうではなく、わたしたちの中のキリストの感覚に服従しないという罪です。キリストはわたしたちの中に生きており、絶えずわたしたちに命の内側の感覚を与えています—ローマ 8:6。
I ヨハネ 2:27. 参照、エペソ 3:1. 4:1. 6:20. II コリント 2:12-14。

D. 命がわたしたちの中で出遭う第四の問題は、わたしたちの天然の能力です：

1. 多くの兄弟姉妹は真に主を愛しており、主のために熱心であり、とても敬虔です。それにもかかわらず、彼らの最大の問題は、彼らの能力と才能が高くて大きいことです。結果として、キリストは彼らの中で地位を持たず、道を持ちません。
2. わたしたちは能力があり、素質があるかもしれませんが、これらのものを罪や汚れと考えていません。わたしたちは自分の天然の能力を軽べつするのではなく、それらを尊んでいます。もしそれらがわたしたちの中で砕かれないままであるなら、それらはキリストの命にとって問題となります。

E. キリストの命がわたしたちの中で妨げられないことを願うなら、わたしたちは十字架の砕きを経験して、これらの障害が対処され、取り除かれるようにしなければなりません—マタイ 16:24-25。

IV. わたしたちは、神の命がわたしたちの心の中で出遭う主観的な障害を見る必要があります：

A. 第一の主観的な問題は、わたしたちの思いの問題です：

1. もしわたしたちの行ないたい事がわたしたちの考えから出ているなら、たとえそれらが成功したとしても、それらは宗教的な活動にすぎません。それらは、わたしたちの霊から生かし出されたキリストの証しではありません—参照、ピリピ 2:5. I コリント 2:16. エペソ 4:23. ローマ 12:2。
2. わたしたちは内側にキリストの命を持っていますが、わたしたちの考えや行動においてキリストの命と協力していないので、この命はわたしたちから生かし出されることができません。
3. わたしたちの思いが霊に付けられるとき、わたしたちの外側の行動はわたしたちの内なる人と一致し、わたしたちと神との間に食い違いはありません。彼とわたしたちには平和があり、敵意はありません。その結果は、わたしたちが内側で平安の感覚を持つということです—8:6。

B. 第二の主観的な問題は、わたしたちの意志の問題です：

1. 多くの時、わたしたちの思いは霊の中の意図を理解しており、わたしたちは神のみこころを知っていますが、わたしたちは服従しようとせず、従おうとしません。
 2. わたしたちは、主がわたしたちにある事を行なってほしいことを理解し、知っており、把握しており、深く感じているかもしれませんが、わたしたちの意志は服従することを拒み、降伏することを拒み、そしてわたしたちは主の臨在を失います。
 3. 主のみこころを遂行する強い意志も弱い意志も、神の命にとって妨げです。対処された意志は、強くても柔軟です。それは主によって征服され、復活させられることによってです。神と協力することのできる意志を持つことは、重要な事です—ピリピ 2:13。
- C. 第三の主観的な問題は、わたしたちの感情の問題です：
1. わたしたちの感情は、神の感情を持つ必要があります。わたしたちは、神の感情の中へと完全に入り込む必要があります—II テサロニケ 3:5. ピリピ 1:8。
 2. わたしたちは、神が愛するすべてのものを愛し、神が好むすべてのものを好み、神が憎むすべてのものを憎むべきです。わたしたちの感情と神の感情は、一つの感情になるべきです—エペソ 5:25. II コリント 12:15. I コリント 16:24. 啓 2:6. ピリピ 1:8。
- D. わたしたちは日ごとに内なる人の中へと増強される必要があります。それは、キリストが命としてわたしたちの心の主要な部分である思い、意志、感情の中にご自身のホームを造ることができるようになるためです—エペソ 3:16-17。
- V. どうか主がわたしたちをあわれんで、わたしたちの目を開いてくださり、この時代における神の中心的な働きとは、人が神の命を得て、神の命において成長し、円熟することであることを、見せてくださいますように。わたしたちの働きは、主の命を他の人たちに分け与え、供給することであるべきです。彼の命から出て来る働きだけが、彼の永遠の標準に達することができます、また彼によって受け入れられることができます—ヨハネ 7:37-39 前半. II コリント 4:10-12. I ヨハネ 5:16 前半. II コリント 3:3, 6。